

国語

課題を工夫し、伝え合う場を充実させて 自身の考えを練り上げ再構築する授業づくり

国語科の授業で生徒が深い学びにいたるためには、「作品を通した伝え合う場をどう充実させるか」が重要です。

なぜ伝え合う場の充実が大切かというと、作品について自分の考えを伝え合う中で、練り合い、練り上げが起こり、自分の考えが再構築されるからです。

課題に興味をもたせることや、自分の考えに自信をもつための基礎知識の理解も充実した伝え合いの土台となります。



県中教研 国語部 全県部長
上越市立八千浦中学校

校長 渡辺 徳彦

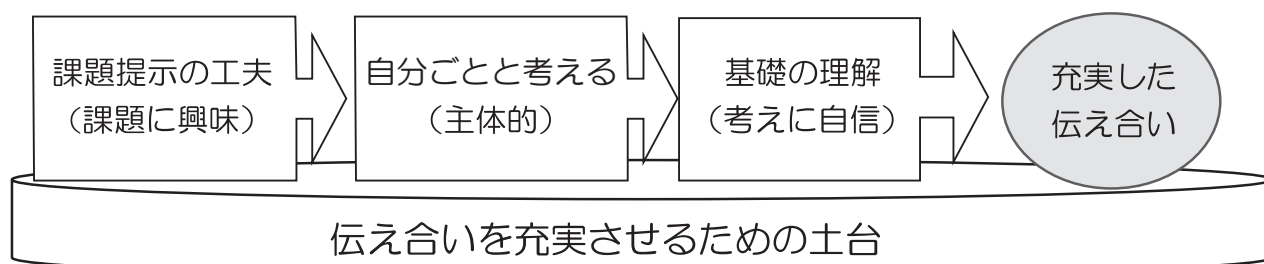
「伝え合う場」充実への土台づくり～課題への興味や基礎知識～

例えば、約350年前の江戸時代に書かれた松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」を、令和の生徒に興味深く読ませるにはどうすればよいのでしょうか。興味をもつということは「自分ごとと捉える」ということ。古典に記された内容と、現代の自分との共通点を見い出すことも、古典作品を自分ごとと考えるための一つの大きな手法です。

共通点を見いだすために、まず、作品を正しく理解することが求められます。歴史的背景、当時の旅の意味、俳句の形式などの基礎知識を学んでおく必要があります。その上で、芭蕉は何に心を動かされたのか、自分の考えをまとめます。芭蕉は、奥州平泉を訪れ、「平家物語」の中で活躍が描かれる源義経の最期に思いをはせました。

ここで大切なのは芭蕉が思いをはせた内容や旅に対する思いを正しく捉えなければ「伝え合い」が正しく成立しない点です。古典作品「おくのほそ道」の筆者がさらにその400年前の「平家物語」に思いをはせる。それを令和の自分たちが思いをはせて読む。この古典作品や歴史のつながりの線上に自分たちも存在するという意識させた課題提示を工夫すれば、古典作品を自分ごとと捉えるのではないのでしょうか。

作品を正しく理解することで自信をもって自分の考えを伝え合うことができます。歴史的背景、当時の旅の意味、俳句の形式などの基礎知識が土台として大切であることが分かります。



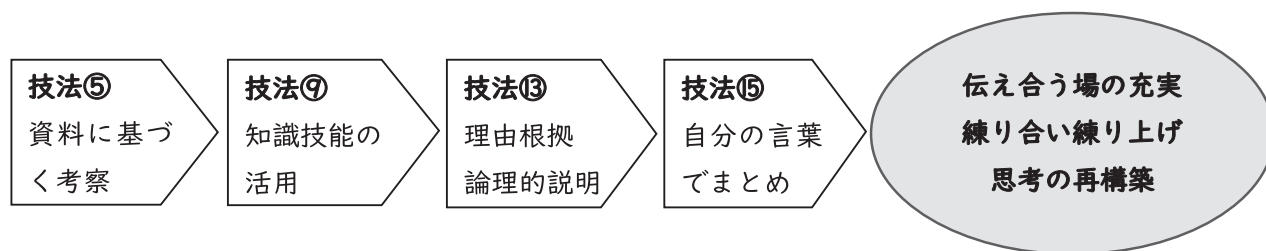
深い学びにいたるための「作品を通した伝え合う場の充実」をどう工夫するか（練り合い練り上げを実現する深い学びの技法）

「主体的・対話的で深い学び」にいたるために、伝え合う場をどう充実させるかが重要です。自分の考えを伝え合う中で練り合い、練り上げが起こり、自分の考えが再構築されます。これが早稲田大学田中教授の「深い学びの技法⑩」です。友だちとの練り合いや練り上げは「深い学び」の真骨頂です。

練り合いや練り上げが起こる場をつくるため、まずは個人が資料やデータに基づいて考察します。（深い学びの技法⑤）作品を通した

伝え合いの場では、作品を学んだ基本的な知識技能を活用して思考や表現をします。（深い学びの技法⑨）また、理由や根拠を示して論理的に説明することも大切です。（深い学びの技法⑬）そして、自分の言葉で学んだことを整理してまとめます。（深い学びの技法⑮）

このように、深い学びの技法を生徒に意識させながら伝え合う活動を行うことで、自分の考えの練り合い練り上げが起こり、考えが再構築されます。



課題に興味をもたせ、伝え合う場を充実させる各地区の工夫

国語の授業で深い学びにいたるために「伝え合う場をどう充実させるか」を共通理解し、各地区独自の迫り方で伝え合う場を充実させています。以下に取組の例を紹介します。

- 古典の内容を「自分ごと」と考えることができる課題提示を行う。
- 正しく作品を理解し、伝え合いを正しく方向付けるために、作品についての基礎・基本を定着させる。
- 習熟度に関わらず自己の考えを練り上げるためICT機器を活用。
- 主張について根拠や理由付けを大切にして作者の意図に迫ることで読みを深める。
- 「学習ログ」を活用して主体的な学びを支えるだけでなく、思考を再構築する振り返りの場面で「学習ログ」を更新する。

国語 重点方針

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもつことができる国語の学習指導に努める。

- 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。
- 考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。
- 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。
- 目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。

国語 <上越地区／上越市中教研>

11月12日(火) 研究会開催

研究主題：課題を「自分ごと」として捉え、思考の過程を楽しみながら考えを深める生徒の育成

単元名：「3年：夏草－「おくのほそ道」から－」

会場校：上越市立春日中学校

公開：2学級

授業者：笠尾 民子・後藤 弘彦

指導者：上越教育大学教職大学院 教授 佐藤 多佳子 様
上越教育事務所 指導主事 草間 啓 様



研究推進責任者
上越市立直江津東中学校
丸山 徳子



教科・領域担当者
上越市立春日中学校
笠尾 民子

こんな深い学びの姿を目指します

古典作品を今の自分と関連付けてとらえ、自他の考えを交流させながら、作品に流れる筆者の見方や考え方を追究していきます。生徒が深めたい課題を設定し、考えの根拠・理由を明確にするプリントによって考えの可視化を図り、多面的・多角的な考察や話し合いを促します。小グループや全体での交流を通して考えの変容・深化・強化を自覚し、根拠を明らかにして自分なりの作品観をまとめる姿を目指します。

主な手立て（「深い学びの20の技法」「生徒の主体的な課題解決過程」との関連）

ポイント1（「深い学びの技法」のNo.3）

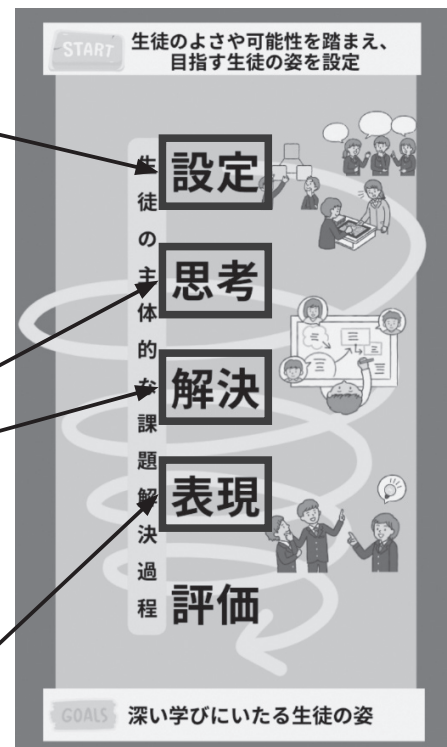
自分と関連付けて考えられる課題を設定し、観点を明確にして、文章と対話しながら自分の考えをもてるようにします。

ポイント2（「深い学びの技法」のNo.8・10）

グループで互いの根拠・理由・考えを比較しながら対話し、課題についての考えを練り上げます。ホワイトボードや付箋を使って互いの考えを可視化し、考察のポイントを明確にししながら、思考の深化を促します。

ポイント3（「深い学びの技法」のNo.13・15）

話し合いの結果をもとに、自分や文章と再び対話し、自分の作品観を、根拠を明確にしてまとめます。



単元(題材)の様子

① 単元を貫く課題として「『おくのほそ道』を「〇〇な後輩」に薦める「読書推薦文」を作ろう」を提示します。「〇〇」は、生徒が自分で設定します。(例:旅に出たい後輩、俳句が好きな後輩)

立場: 芭蕉とともに旅をした人

発信する相手: これから『おくのほそ道』を読む2年生後輩

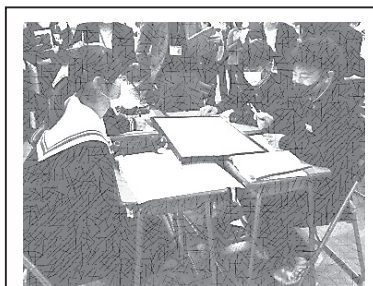
の2点を明確にし、課題に対する主体的な取組を促します。江戸時代に書かれた作品が今なお人々の心をとらえ続けているのはなぜだろうと投げかけ、現代に生きる自分と対比・類比しながら、『おくの細道』の魅力を探り、読み進めていきます。

ポイント1

② 歴史的背景等の基礎知識を確認した後、地の文から読み取れる芭蕉の思いを、根拠・理由・自分の考えを明確にして整理します。

グループ活動や全体の話合いでは、ホワイトボードや付箋等を用いて互いの考えを可視化し、考えの深化を図ります。

ポイント2



昨年度プレ授業時
グループ活動の様子

③ 地の文から読み取った芭蕉の思いと重ね合わせながら、俳句に込められた芭蕉の思いを考えます。1学期の俳句学習を生かし、芭蕉の俳句の良さは何かを自分なりに考え、まとめます。

ポイント2

研究会

本時の課題

「あなたが旅の同行者なら、旅立つ芭蕉に対してどんなことを思うだろう」

④ 自分がこれから芭蕉とともに旅に出る立場に立つとしたら、芭蕉に対してどんな思いをもつかを出し合います。それらを

A プラスの感情 **B マイナスの感情** **C その他**

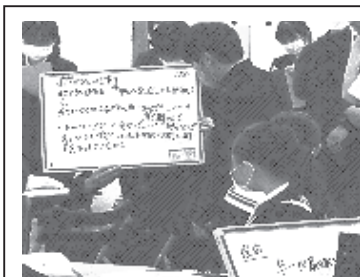
に分類し、ABCのいずれかの立場を選んで、旅立つ芭蕉をどのように見るかを、前時までにとらえた芭蕉の思いをもとに考え、表現します。



昨年度プレ授業時の様子

⑤ グループ活動で、根拠を確かめながら互いの考えを伝え合い、ABCそれぞれの視点から、「芭蕉の行動や思い」に対する考えを広げたり深めたりします。

⑥ 交流で得た考えを自分の表現に生かしながら文章を完成させ、発表し合います。



昨年度プレ授業時
全体での発表の様子

ポイント3

⑦ 「夏草」「光堂」の部分から、さらに芭蕉の思いや表現の工夫を考え、ともに旅をしている立場で、芭蕉への思いを表現していきます。冒頭から光堂にかけて、「旅の同行者としての自分」の芭蕉への思いの変化を確かめ、最後に、『おくの細道』を後輩に推薦する文章を、200～300字でまとめます。自分の作品観を、推薦文を書くことを通して整理し、互いの作品観を交流しながら、『おくのほそ道』の魅力を確認し合います。

ポイント1・2・3

国語 <中越地区／魚沼市中教研>

11月1日(金) 研究会開催

研究主題：情報を整理し、自分の考えを表現できる生徒の育成

単元名：「3年：複数の情報を関連づけて考えをまとめる」
～「魚沼紹介ポスター」を作ろう～

会場校：魚沼市立小出中学校

公開：1学級

授業者：山本 祐作

指導者：中越教育事務所 学校支援課第2課長 山崎 寿徳様
魚沼市教育センター

統括指導主事 江田 浩様



研究推進責任者
魚沼市立堀之内中学校
北村 紗月



教科・領域担当者
魚沼市立小出中学校
山本 祐作

こんな深い学びの姿を目指します

話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて整理することが、自分の思いや考えを明確なものにすることにつながると考えます。本単元では、自分で情報を収集・選択し、それを根拠に自分の考えに論理性をもたせて伝える姿を目指します。また、他者との交流を通して、多面的な視点で自分の考えを吟味し、深める姿を目指します。

主な手立て(「深い学びの20の技法」「生徒の主体的な課題解決過程」との関連)

ポイント1(「深い学びの技法」のNo.3)

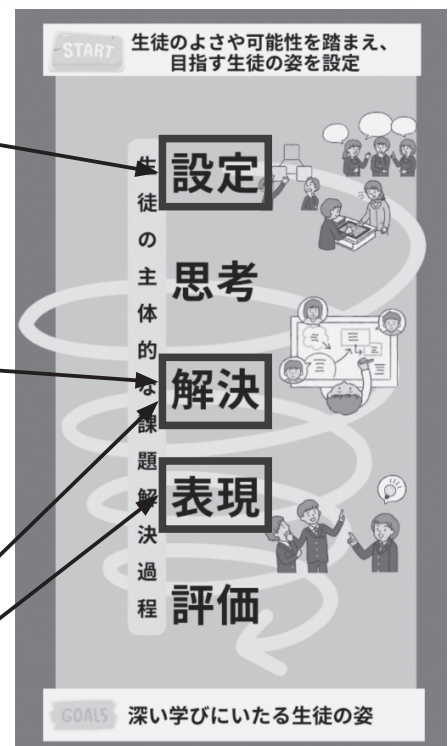
情報を読み取る際の視点や観点を理解し、情報の信頼性の確かめ方を捉える。

ポイント2(「深い学びの技法」のNo.9)

目的や意図に応じて文章を適切に選択・活用し、効果的な表現の方法について考える。

ポイント3(「深い学びの技法」のNo.13・10)

意見と根拠を明確にしながら、論理的に自分の考えを伝える。また、話し合い活動を通して自分の考えを練り上げる。



単元(題材)の様子

①②③ 「情報社会を生きる－メディアリテラシー－」の読みを通して、情報とは送り手によって「構成されたもの」であることを学んだ後、「広告の読み比べ」を通して、どのような意図で情報が構成されているのかを、観点を設定して比較します。2つの資料の読みを通して、情報の受け手としての視点を実感的に捉えます。

ポイント1

④⑤ 情報が送り手によって「構成されたもの」であること等、受け手としての視点を学んだうえで、「魚沼紹介ポスター」の案と構成シートを作成します。作成においては、情報の送り手として、文章の種類を選択、意見と根拠の関係、情報の信頼性などを観点に、目的、相手に応じた内容、方法を吟味します。これによって情報の送り手としての適切な判断を身に付けます。

ポイント2

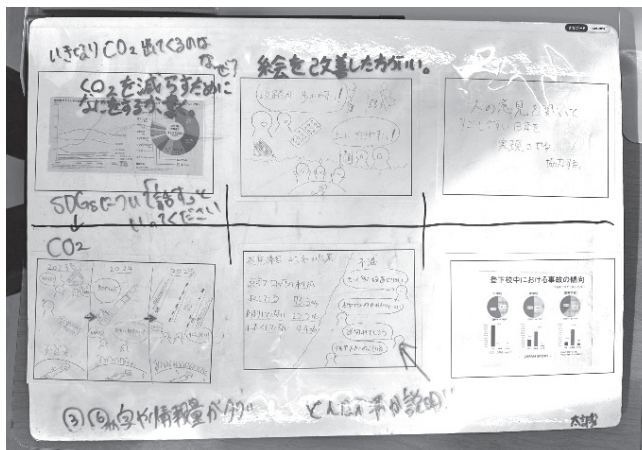
情報収集の様子
(昨年度の実践より)



研究会

⑥ ポスターの案を作成したら、「まなボード」を用いて互いの案についてペアで検討を行います。ポスターの内容を伝える際には、収集した情報を根拠に、自分の伝えたいことを論理的に説明します。検討時には、選択した資料やその配置は適切か、意見と根拠に整合性はあるか、情報の信頼性はどうか等をチェックし、相手の「まなボード」にアドバイスを記述します。複数回繰り返し、自己の考えを見つめ、推敲する活動へと繋げていきます。

まなボード (昨年度の実践より)



ポイント3

⑦ ワークシートを用いてペアでポスター案を検討した後、その内容をもとに「魚沼紹介ポスター」を作成します。

⑧ 作成したポスターを発表し合います。発表後は、ポスター案の検討やポスター作成を通して学んだこと、他者の発表を聞いて学んだことをもとに振り返りを記述します。

発表の様子 (昨年度の実践より)



国語 <新潟地区／新潟市中教研>

11月7日(木) 研究会開催

研究主題：学び合いを通して、生徒が言葉による見方・考え方を使って考えを深め、自らの成長を実感する国語科授業

単元名：「2年：漢詩の風景」
「3年：君待つと－万葉・古今・新古今」

会場校：新潟市立東新潟中学校

公開：2学級

授業者：堀川 航矢・土屋 明善

指導者：新潟市立総合教育センター 所長補佐 長谷川 聡実 様
新潟市教育委員会 指導主事 志田 江利子 様



研究推進責任者
新潟市立濁川中学校
及川 陽子



教科・領域担当者
新潟市立東新潟中学校
小竹 玲子

こんな深い学びの姿を目指します

「漢詩の風景」では、よりよい表現方法について認識を深める姿を目指します。手立てとして、漢詩（漢詩風の詩）を創作し、練り上げる活動を組織します。この活動を通して、生徒は漢詩の創作においてよりよい表現を追求し、自他の表現のよさを認識することで、多様な表現の仕方や表現技法の効果について認識を深めます。

「君待つと」では和歌の表現の良さと普遍性を再認識する姿を目指します。手立てとしてテーマに沿った和歌のプレゼンバトルを行います。判定基準に基づき、表現の巧みさや詠まれた情景・心情などを考えることで、時を超えて読み味わうことができるものであるという和歌の普遍性についての認識を深めます

主な手立て（「深い学びの20の技法」「生徒の主体的な課題解決過程」との関連）

漢詩の風景

ポイント1（「深い学びの技法」のNo.3）

既習事項を整理し、そこから表現のもととなる基準を設け、それに沿って表現する。

ポイント2（「深い学びの技法」のNo.8）

対象と言葉、言葉と言葉の関係を意識しながら、他者の意見に触れ、自身の意見と比較し良さを考える。

ポイント3（「深い学びの技法」のNo.10）

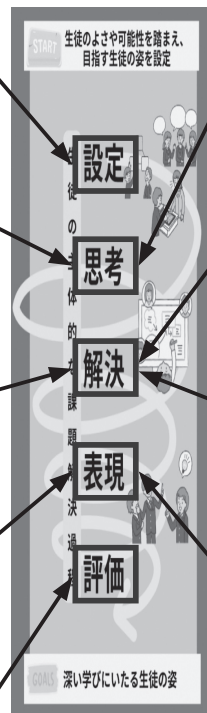
表現の工夫や効果などについて読み手からの助言などを踏まえ、良い点や改善点を見出す。

ポイント4（「深い学びの技法」のNo.15）

表現の効果などを考えて描写し、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する。

ポイント5（「深い学びの技法」のNo.19）

作成した文章を振り返ることで、言葉がもつ価値を認識し、その能力の向上を図る態度を養う。



君待つと－万葉・古今・新古今

ポイント1（「深い学びの技法」のNo.5）

目的や場面に応じて話題を決め、話し合う材料を収集・整理し、伝え合う内容を検討する。

ポイント2（「深い学びの技法」のNo.9）

論理の展開などを考えて、話の構成を考えたり、工夫したりする。

ポイント3（「深い学びの技法」のNo.10）

表現の工夫や効果などについて読み手からの助言などを踏まえ、良い点や改善点を見出す。

ポイント4（「深い学びの技法」のNo.13）

自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する。

単元(題材)の様子

漢詩の風景

①～③ 白文、訓読文、書き下し文を比較し、漢詩で使われている表現方法と起承転結、押韻、対句など現代の表現技法の共通点を考えます。多くの表現技法が現代でも使われていることに気づくことで、漢詩表現の奥深さを感じることができます。

また、訓読文、書き下し文が白文のリズムを感じさせる優れた表現方法であることにも触れ、漢詩の創作につなげます。

④ 孟浩然「春暁」杜甫「絶句」の漢詩をもとに、漢詩の表現の工夫を使い、漢詩を創作します。この活動を行うことで練り上げられた一字の大切さや作者の思いに触れることで、現代と共通する価値観・異なる価値観があることに気づくことができます。



ポイント1・4

君待つと - 万葉・古今・新古今

①② 「仮名序」の内容に触れ、和歌の本質を理解します。その上で教科書の和歌を読み、内容を把握します。その後、とらえた内容への疑問点を挙げ、クラスで共有します。

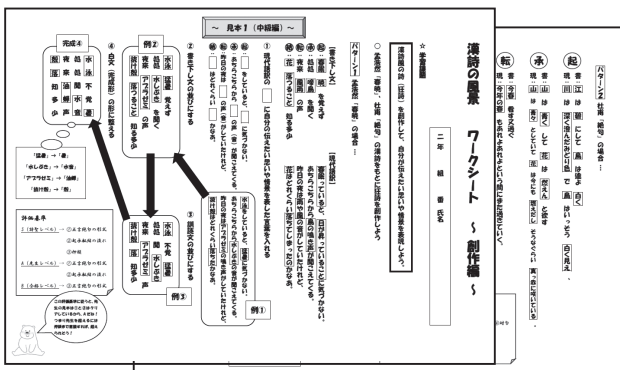
③～⑤ 和歌の良さを伝えるプレゼンバトルを行うための資料作りを行います。この活動を行う際、判定基準をクラスで共有し、それに基づいた資料を作成します。この活動を通して、目的意識をもって話し合い活動を進めることができますよう
ポイント1

⑥ プレゼンで使用する資料や発表パフォーマンスがよりよくなるようグループ内で練り上げます。この活動を行うことで、相手を意識した発表をし、相互評価させることで、良い点や改善点を見出し、質の高い表現活動ができるようになります
ポイント3

研究会

⑤ 創作した漢詩を評価基準に基づき、グループで相互評価、推敲し合います。この活動を行うことで表現の効果などを再確認しつつ、読み手(仲間)からの助言を踏まえ、作品をよりよいものにします。互いに評価、推敲し合うことで、自己の心情に迫り、お互いの個性を見つけることができます。また、言葉を吟味することでより深い学びの姿が形成されます。
ポイント2・3・4

⑦⑧ 調べた和歌を「言の葉バトル」と称してプレゼンバトルを行います。バトルでは、聴衆を説得する効果的な資料の提示や納得できる根拠のある説明をします。この活動によって根拠のある説明をすることはもちろんのこと、聞き手として聞き取った内容や表現の仕方を評価することで、作者の心情に迫り、読みを深めることができます。
ポイント2・4



⑥ 創作した漢詩を作品集にまとめ、振り返りを行います。この活動を行うことで、言葉のもつ価値について再認識し、次の活動へと繋がります。
ポイント2・5

⑨ 学習の締めくくりとして、和歌の発表をもとに心に響いた一首を選び、鑑賞文を書き、作者の心情や表現の工夫を振り返ります。

国語 <下越地区／新発田市中教研>

11月27日(水) 研究会開催

研究主題：これまで身に付けてきた読みの力を働かせ、課題解決に向けて主体的に学習を進められる国語科授業

単元名：「3年：故郷」

会場校：新発田市立加治川中学校

公開：1学級

授業者：須藤 里香

指導者：胎内市立中条中学校 校長 森谷 優子 様



研究推進責任者
新発田市立東中学校
五十嵐 美波



教科・領域担当者
新発田市立加治川中学校
須藤 里香

こんな深い学びの姿を目指します

研究推進委員会では、生徒の深い学びの姿を「個別最適な学びの姿の実現」と捉えました。生徒自身が、自分の学習の進め方を選んだり決めたりしながら主体的に課題解決に向かう姿を目指します。主体的に学習を進めるためには、生徒がこれまで身に付けてきた「読みの力」を自覚し、活用していくことが重要です。ICTを利用して、学習ログを蓄積・再構築・活用したり、仲間と協働的に学んだりすることによって、主体的に課題解決に向かう生徒の姿を目指します。

主な手立て（「深い学びの20の技法」「生徒の主体的な課題解決過程」との関連）

ポイント1（「深い学びの技法」のNo.1）

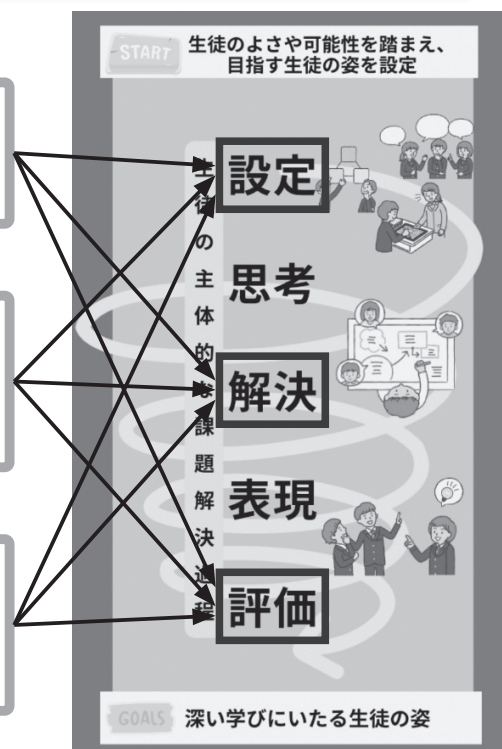
生徒自身の問いを元に「追究課題」を設定する。

ポイント2（「深い学びの技法」のNo.9）

生徒一人一人が自らの学習ログを活用して課題解決に向かう。

ポイント3（「深い学びの技法」のNo.18）

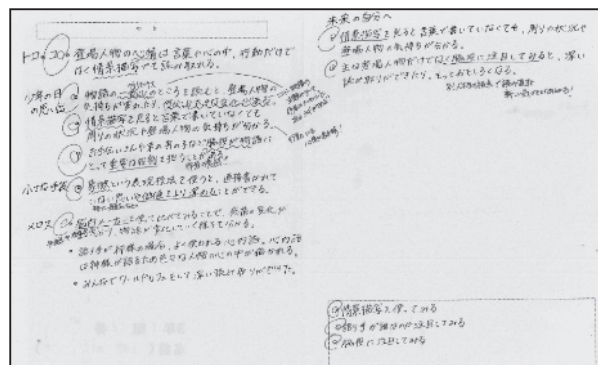
学習をとおした読みの広がりや深まりを評価し、次の学習に生かせるように学習ログを残す。



単元(題材)の様子

これまでの物語単元でタブレット端末に蓄積してきた学習ログを振り返り、紙媒体に再構築して「わたしの国語学習 物語編」にまとめます。これにより、生徒は自分が身に付けてきた「読みの力」を自覚します。「わたしの国語学習 物語編」は、生徒が自ら選んだり決めたりして自らの学習を調整し、個別最適な学びを実現するための支援ツールです。生徒はこれを活用して単元の学習の計画を立て、見直しをもちます。学習中はいつでも手元にあり、必要に応じて見返したり、自分がログを残したいタイミングで内容を付け加えたりします。

学習成果物の整理や共有が容易であるというICTの強みを生かし、学習ログを意図的に蓄積することで、国語科において課題とされる系統的な学びをサポートします。



「わたしの国語学習」(昨年度の実践より)

私の国語学習
～物語・小説編～

3年組 番
名前()

ポイント1

ポイント2

ポイント3

- ①～④ 学習ログを活用して学習計画を立て、これまで培ってきた知識や学び方を使い、時に仲間と協働的に学びながら課題解決に向かいます。教師主導の学習ではなく、自立した読み手として、主体的に物語を読み深めていく姿を目指しています。

学習ログで着目の仕方を振り返り、辞書等を活用しながら本文を読み進めます。気付いたことや疑問等を教科書に書き込み、初発の感想を書きます。

物語の設定や構成を確認し、自分の問いをもとに追究課題を設定します。

授業の様子(昨年度の実践より)



研究会

- ⑤～⑥ 前半は自分の計画で一人一人が問いを追究します。後半は、語り合う時間を設定し、自分の立てた問いとその解釈を仲間に伝え、自分の考えを広げたり深めたりします。

語り合いの様子
(昨年度の実践より)



- ⑦ パフォーマンス課題として、「故郷」の魅力語る批評文を書きます。
⑧ 単元を振り返って読みの広がりや深まりを言語化します。さらに、単元をとおして身に付けた「読みの力」をメタ認知し、「私の国語学習 物語編」に学習ログを付け足したり再構築したりすることで、次の学習に繋がります。

単元を貫く手立て